



第142号 平成31年1月21日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくら



スポーツ振興くじ助成事業

特集 指導者育成に取り組むクラブ



- ▶▶▶ 一般社団法人とまこまい・遊び塾
- ▶▶▶ やつしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」

特別企画 災害発生時の支援体制等を準備しているクラブ



- ▶▶▶ NPO法人 吉野スポーツクラブ
- ▶▶▶ NPO法人 美咲町柵原星の里スポレク倶楽部

連載 みんなで盛り上げよう！オリンピック・ムーブメント



- ▶▶▶ beyond2020マイベストプログラム



助成金情報 ▶▶▶ 詳細



お知らせ ▶▶▶ 詳細



バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

指導者育成に取り組むクラブ



とまこまい・あそび塾

＜北海道苫小牧市＞



永続的なクラブ活動を行うためには、常に次世代の育成を念頭に、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要です。

そこで、指導者育成に取り組み、円滑な世代交代を行う基盤を整備している事例を紹介します。



1. クラブGMがLPT(リーダープロジェクトチーム)制度の導入を発案
2. 若手スタッフが積極的に教職課程を履修し、学校現場を理解
3. 「指導者の育成」だけでなく、企業と連携して「指導者の確保」にも着手



東日本復興応援リレー

1 クラブ概要

苫小牧東部地区には、多くの少年団・スポーツクラブ(組織に所属していない)が長く活動を続けていました。苫小牧東部工業地帯が隣接したことにより、市内の人口が西の方から沼ノ端地区へ移動し、地域の環境が多様化しました。宅地造成が行われ、若い従業員も多く、子どもが増えたことで、沼ノ端地区の学校数も増えました(小学校1校→4校、中学校1校→3校)。こうした人口増加など環境の変化から、単一少年団の活動では越えられない活動場所の確保、団員の取り合い、会費設定などの共通した問題が多くなりました。

平成12年に校区内の小・中学校、町内会の協力をいただき、地区の少年団が軸となり、スポーツ・文化活動を通じて、地域の発展と青少年の健全育成を目的として「沼ノ端地区少年少女スポーツクラブ連絡会」(以下、「クラブ連絡会」)を設立しました。当初、5種目5団体でしたが、その後、9種目13団体となり、平成20年度には、文部科学省の育成指定クラブ委託事業「創設支援クラブ」の指定を受け、平成22年4月より「自立支援クラブ」として活動を拡大しました。

平成20年2月20日に「とまこまい・あそび塾」が設立され、現在は陸上、野球、サッカーなどの少年団・クラブチームの他、タグラグビー、キンボール、スポレック、日本舞踊などのサークル活動が盛んに行われています。

2 LPT制度を導入し、「指導者の確保」へ始動

「クラブ連絡会」設立に尽力された島崎鶴松氏(現とまこまい・あそび塾GM)は地元で建設業を営み、長年にわたり地区の小学校のグラウンド整備を行うなど、地域や学校に積極的に関わっていました。「クラブ連絡会」では、陸上少年団の指導にあたり、全国規模の大会に出場する選手を多く輩出してきました。しかし、当時から「クラブ連絡会」に所属する団体の共通の課題として、「指導者の確保」が挙げられていました。

・以前は保護者が指導者→指導者交代のたびに指導内容が変わる弊害も

ほとんどの少年団・クラブチームでは、選手の保護者が指導者となることが多く、子どもの卒業とともに2、3年で指導者が入れ替わってしまいました。また、指導者が代わることで指導の質も変わり、子どもたちにとってもマイナスと感ずることもありました。この課題は、「総合型クラブ」へと移行するまで解決されることはなく、島崎氏は新しく設立するクラブの大きな柱として、LPT(リーダープロジェクトチーム)制度の導入を掲げました。



小学校体育授業講師派遣風景



3 若手スタッフが積極的に教職課程を履修

- ・競技知識以外に、学校の仕組みや先生の想い、児童心理学等を学ぶ
→「指導者の育成」

LPT制度の大きな目的は「指導者の育成」です。

もともと地域と密接に関わりのあったこともあり、クラブに対し、学校体育支援や中学校部活動外部指導者としての役割も求められるようになりました。学校現場で活動を進めるなか、島崎氏は「子どもたちと接する指導者は、競技のことだけではなく、学校の仕組みや先生方の想い、児童心理学などを学んだ上で、その成長に関わらなければならない」と強く感じたそうです。そうして、これから長く指導に関わるであろう若手スタッフに、教職課程の履修を奨め、クラブの研修費からその受講料を捻出しました。4年制大学を卒業していたスタッフは、2年間の履修期間を通して、学校教育における様々な知識を習得し、その学びを生かしながら現在も陸上を中心としたクラブ事業に関わっています。

4 子どもとの接し方が好転 →個々に合った指導・声かけ→指導に自信も

教職課程を履修したスタッフの、子どもに対する接し方には明らかに変化があったそうです。一人一人を見る目が変わり、以前にも増して、個々に合った指導、声かけができるようになりました。「本人も自信を持って指導にあたっているのが見て分かる」と島崎GMは話します。

また、体育支援で関わっている学校の校長先生からは、子どもや教職員に対する気配りができて、大変助かっていると好評を得ているようです。



ウィンター・サマースクール光景



5 「指導者の確保」に向け企業と提携

・企業の運動指導経験者が短時間クラブで指導

LPT制度のもう一つの目的には「指導者の確保」が挙げられます。子どもたちが少年団やクラブで活動する時間帯に2～3時間だけでも指導に携わってもらえるスタッフを確保するため、運動指導経験のある人材が籍を置く企業との提携を考えています。企業には指導で抜ける2～3時間も勤務と認めてもらい、その間の指導謝金をクラブが企業に支払うという仕組みです。

・提携企業数の増加、複数の常勤スタッフ確保を目指す

この提携は、先に挙げた教職課程を履修したスタッフが勤務する企業とクラブとの間で既に取組まれており、今後はその数を増やして、安定的に指導者を確保できるようにしていきたいと考えています。

そしてゆくゆくは、教職課程を履修したスタッフが増え、指導の質が上がることでクラブの質も上がり、複数人の常勤スタッフを確保できるようなクラブ経営を目指しています。

6 他クラブへのアドバイス（島崎GMから）

・失敗は次へのステップ 萎縮せずチャレンジを

僕の辞書に失敗という文字はありません。チャレンジャー精神で何事にも全力を尽くし、そこで失敗と思うようなことも、それを次に生かせば、それは失敗にはなりません。クラブ運営ではP・D・C・Aサイクルが重要だと言われますが、人材育成でもそれは同じ。きちんと計画を立て実行して、検証した結果、失敗と思うことも、次に生かせばOK！—という気持ちで、若手スタッフにいろんな挑戦をさせます。がんじがらめでは萎縮して育ちません。それを見守る私自身も、チャレンジャーであり続けたいと思います。

（北海道体育協会 クラブアドバイザー 熊耳 雅美）



クラブプロフィール

設立年月日 平成20年2月20日(平成27年一般社団法人認可)

所在地 北海道苫小牧市沼ノ端地区

運 営 会員数約370名(平成30年12月現在)、予算規模11,482,363円(平成29年度)

有給職員 1名

特 徴 主に6つの少年団・クラブ、7つのサークルが定期活動を実施しています。
年に数回、子どもから大人まで多くの方々が参加するイベントを実施し、
みんなで楽しく汗を流しています。

連絡先 一般社団法人とまこまい・あそび塾事務局
〒059-1305 苫小牧市沼ノ端中央1-1-24
TEL 0144-55-0940 FAX 0144-55-1818
URL <http://www.toma-asobijyuku.com>



地域環境美化推進活動



野球少年団へのかけっこ教室風景



特集

指導者育成に取り組むクラブ

やっしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」 ＜熊本県八代市＞

持続的なクラブ活動を行うためには、常に次世代の育成を念頭に、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要です。

そこで、指導者育成に取り組み、円滑な世代交代を行う基盤を整備している事例を紹介します。



1. 熊本県体育協会の講師派遣事業を活用し、各種教室を実施
2. スタッフ不足のため近隣の高校にボランティアスタッフ派遣を依頼
3. 資格取得に向けスタッフが養成講習会を毎年受講し、人材を育成



1 クラブ概要

設立背景

クラブの会長を務める村上久栄氏は、もともと個人として、地域でスポーツ教室、ヨガ・ピラティス教室、ウォーキングイベント、講習会などでボランティア活動をやっておりました。

村上会長が新潟県レクリエーション協会専務理事の渡辺耕司先生を招いて講習会を開催した際、ひかわスポーツクラブの齋藤久允クラブマネージャーと出会い、「総合型地域スポーツクラブを立ち上げるといいのではないか」との話があり、その後、熊本県体育協会（以下「県体協」という。）に相談したのが設立のきっかけとなりました。

設立時のキーパーソン

村上久栄、小林一美、齋藤久允の3氏

クラブ理念

「未来につなげる笑顔・元気・健康、そして夢を！」

- 住民の交流を深め、明るく活力あるまちづくり
- 子ども達の健全育成、居場所づくり
- 青年の夢と活躍場所づくり
- 高齢者の健康寿命増進、生きがいづくり

現在までの経緯

設立準備委員として設立に携わったスタッフと、週1回のスポーツ教室を開催。大人から子どもまで一緒にできる内容で会員を確保しながら、年に1～2回の単発イベントとしてウオーキング大会や講習会などを実施してきました。また、県体協が実施している講師派遣事業を活用するなどして、会員確保に努めてきました。

講師派遣事業を実際に活用した教室ですが、平成28年度に中高年向けの健康卓球教室（ラージボール卓球教室）を実施し、29年度には幼児から一般までを対象としたバドミントン教室、30年度は子どもから高齢者対象のフラダンス教室を実施しました。

現在の活動状況

- 子どものスポーツ教室
- 健康卓球教室
- ヨガ・ピラティス教室
- 高齢者の体操教室
- バドミントン教室
- ミニバレーボール教室
- トランポリン教室
- 絵手紙教室
- 生け花教室
- 単発イベント（ウオーキング大会等）



2 指導者育成に向けた動き

経緯

スタッフ全員それぞれ仕事をしているため、スタッフ不足で運営に支障をきたしていた。

目的

クラブの理念でもある、青年の夢と活躍場所づくり。

具体的な取り込み

近隣の高校にボランティアスタッフの依頼。

中高年の教室の参加者に協力依頼。

行事開催前に事前打ち合わせや役割分担の確認、必要に応じて練習などを行った。

キーパーソン

運営スタッフ全員（自分ができる所で、各自それぞれの役割を担当している）。

課題

学校等でボランティアを養成することが慣例化されていないため、開催日時によってはボランティアスタッフを確保できないこともある。また、役割分担や内容を明確に伝えないとボランティアスタッフが活躍できない。

3 指導者育成への取り組み内容

取り組み内容

- イベント開催前日にボランティアスタッフに集合してもらい、運営スタッフとともに、事前打ち合わせ（業務内容、役割分担等）を行い、高齢者の教室の中では練習や打ち合わせ等を実施しました。
- 運営スタッフやボランティアスタッフの打ち合わせ日時の調整とボランティアスタッフの役割の配分については苦労しました。
- 事前打ち合わせができていたので、それぞれのスタッフが各自の持ち場で活躍してくれました。またボランティアスタッフの中には1回だけではなく、別のイベントにも協力してもらえました。



高校生ボランティアの依頼

- ウォーキングやイベント開催にあたり、活動内容をスタッフ間で話し合う。
- 高校生ができることを検討する。
- 学校にボランティア派遣の確認と依頼。
- ボランティアスタッフの活動内容の事前打ち合わせをして当日を迎えている。

アシスタントマネジャー資格取得の取り組み

- 講習会の情報の提供を行っている。
- 講習会に参加した人から感想を会議の際に話してもらう。
- 講習は2日間あるが、どうしても1日しか参加できない方については県体協に相談し、受講させてもらったことがある。結果的に翌年度再度受講し、資格取得につながった。

4 スタッフの意識が高まり、責任感も生まれる

クラブスタッフ・指導者への効果や影響ですが、責任感と取り組む意識が高くなったことが挙げられます。そのため、研修会や講習会への参加やクラブ運営面でも積極的になり、スタッフ間の連携が強くなりました。スタッフのスキルも上がり、指導者として徐々に活動ができ始めています。また、クラブ会員にも率先して協力してもらえるようになっていきます。イベントに参加するだけでなく、協力することで、毎年のイベントを予定に入れてもらっています。業務内容に慣れてくれたことで、運営がよりスムーズになり、助かっています。さらに、顔なじみが増えることによって笑顔も増えて会話が弾み、仲間意識が強くなりました。



5

固定した教室運営に向け、課題は安定収益と 常任スタッフ確保

指導者を育成する上での課題ですが、仕事をしながら可能なときに来てもらっているスタッフが多いため、定期的な教室運営が難しいことです。今後は安定した収益を目指し、常任スタッフを確保することで、さらに魅力のある活動をしていきたいと考えています。

「やりがい」がスタッフに生じれば、一体感のある組織に変化

クラブ理念に基づき、スタッフと共に創り上げていくことで、大変な中でもやりがいや楽しみが生まれ、一体感のある組織となってきています。焦らずゆっくりと、できそうなところを見つけて、声をかけ続けていくことで、協力してもらえるようになっていくと思います。

（熊本県体育協会 クラブアドバイザー 太田黒 尚子）

クラブ プロフィール

設立年月日 平成29年2月5日

所在地 熊本県八代市高田校区

運 営 会員数88名（平成30年3月末現在）、予算規模274,000円（平成30年度）

有給職員 0名

特 徴

- ・公認アシスタントマネジャー資格を取るため毎年スタッフが養成講習会を受講し、人材を育成している。その他様々な研修にみんなで参加している。
- ・ウォーキングイベントを毎年行っており、地元高校生にも協力いただいている。
- ・指導者に有資格者が多く、専門的な指導ができる。
- ・支援学校の教員も役員の一員であるため、障害がある方へのケアができる。
- ・老若男女誰でも参加できるプログラムがあるため、交流ができる。

連絡先 〒866-0063 熊本県八代市豊原上町3265-3
TEL 090-9584-6652 FAX 0965-31-8218
E-Mail hisae123456789@yahoo.co.jp



特別企画

災害発生時の支援体制等を準備しているクラブ



NPO法人吉野スポーツクラブ ＜奈良県吉野町＞



いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対し、準備や対策ができるか、また災害発生地域に対し、どのような支援ができるかを考えることは、地域の諸課題解決に向けた取り組みとなり、より地域に根差したクラブとして定着するきっかけになりえます。

そこで、今回は、クラブの防災対策や被災地支援等の取り組みを紹介します。



1 クラブ概要

吉野スポーツクラブは平成（以下H）13年（2001年）文部科学省の総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業としてスタートしました。行政主導でH15年（2003年）8月に「吉野スポーツクラブ」として設立、H22年（2010年）7月にNPO法人格を取得、10年目を迎えたH25年（2013年）に吉野運動公園の指定管理者となりました。

吉野スポーツクラブの理念は「スポーツを通した まち ひと づくり」です。林業の町で栄えた吉野町ですが、近年林業が衰退する中、スポーツの力を活用して吉野町という地域社会の再建のためにスポーツクラブを通して町づくり・地域づくりを展開しています。具体的には、住民に対して地域力を高めるために健康・体力づくり事業財団や奈良県地域での花いっぱい運動支援などの多岐にわたる受託事業を行っています。このように、地域の新しい公共を担っている総合型地域スポーツクラブです。



★マラソン大会での炊き出しがきっかけ

クラブ主催の「吉野津風呂湖健康マラソン」が H20年(2008年)にスタートしました。
運営委員会で色々と検討して行く中で、以下の4項目がポイントとなりました。

- ①事務所を置いている吉野運動公園の体育施設が防災拠点施設であること。
- ②災害時に町民が避難し、食事の提供等も考えないといけないこと。
- ③吉野スポーツクラブが将来、体育館施設の指定管理を取った場合のこと。
- ④次世代のリーダー養成が必要であること。

● マラソン大会終了後も炊き出し事業は継続

以上のことから、クラブ会員全員で運営するマラソンにおいて、炊き出しを行うことが決まりました。炊き出しを行うのは、防災意識を持ってもらい、被災した時のノウハウの一つになれば良いと考えたからです。このマラソンはH24年(2012年)の第5回まで行われましたが、クラブや地域の諸事情で打ち切りとなりました。しかし、炊き出し事業は引き続き行っています。クラブ主催の約700人～800人が集うグラウンドゴルフ大会や町内のイベント、老人ホームへの慰問等と規模の大小問わず、クラブ会員から募って炊き出しの経験をしてもらっています。

★防災スポーツカーニバル

● クラブと中学が連携して防災意識を啓発・啓蒙

H27年(2015年)には、「防災スポーツカーニバル」としてイベントが行われました。毎年、小学生の会員と吉野町の中学校や近隣の高校の生徒を呼んでのスポーツクリスマス会を行ってききましたが、この年はクラブと学校連携(中学校の部活)事業の一環として中学生を中心にクラブ会員が交流する事業にして、中学生35名とクラブ会員(小学生・一般)約270名の合計約300名の参加でイベントを行いました。イベントでは、若い世代に向けた防災の啓発、啓蒙を行うことになりました。

● 消防署から講師招き防災講習会 防災ゲームも実施

「総合型クラブ＝地域ぐるみ」ということから小学生からシニアまでのクラブ会員が同イベントに参加し、午前中はグラウンド(中学生と高齢者のグラウンドゴルフ)や体育館(小学生とワーキング世代のドッジボール)でスポーツゲームを楽しんでいる途中に地震が発生したとの想定で避難訓練を実施しました。また、昼食は非常用の炊き込みご飯(お湯でもどす簡易ごはん)を炊き出しのクラブ会員が作り、中学生が配膳して試食を兼ねて食事をいただき、より実践意識を持ってもらうために、炊き出しの際には、炊き込みご飯をあえて少ない分量のパックで配布したとのことです。



昼食後、体育館に全員が集まって、消防署から招いた講師による防災講習会を聞きました。災害の怖さなどや地域住民の連携が如何に大切かを学び、講習会後はグループに分かれて防災ゲームを行いました。アドバイザーとして実際に参加しましたが、大変楽しく学ぶことができました。

【防災ゲーム】

①「何が要るかな」

「災害がおこりました」の合図で5m先の封筒を各自が走って拾い、封筒の中にはいろいろな災害が書いてある紙が入っています。その災害に必要な道具(防災グッズ)が5m先に置いてあります。道具を選択して、3m先の持ち物審査員に渡します。合格となれば選択した防災グッズがもらえるゲームです。なお、間違っている場合でも、後からもらえます。

②消火リレー「きやり〜みず・みず」

10人で1チームを編成します(1チーム子ども5人・一般5人)。一列に並んで、先頭がピンポン球やスーパーボールが入っている金魚すくい用の四角いプールから、それを水に見立ててバケツ等の容器ですくい、バケツリレーをして後方に送ります。最後の人のところに用意されている特大ゴミバケツがボールで満杯になったチームから座るゲームで、制限時間は5分です。



【防災スポーツカーニバル 参加者アンケート】

Q1:今日のイベントはどうでしたか？

参加者のうち一般・小学生の8割以上、中学生の6割以上が「良かった」と回答。

Q2:いろいろな人と一緒にできて良かったですか？

多世代交流については、一般・中学生の8割以上が「良かった」と回答したのに対して、小学生は「良かった」が約6割と中学生より約2割低い結果となりました。普段は親や友達といった限られた交流しかない小学生にとって、多世代との交流に緊張等を感じた児童もいたようです。一方で、一般、特に高齢者は、若い世代と協力する内容や種目を経験し、交流が「非常に楽しかった」と回答しています。



Q3:ドッジボールやグラウンドゴルフはどうでしたか？

全体の約8割が「楽しかった」と回答しています。全世代がスポーツの楽しさを感じたようで、大変好評だったことがうかがえます。

Q4:防災の勉強になりましたか？

「大いになった」または「少しはなった」との回答は全体の約9割を占め、「ならなかった」と回答したのは約1割でした。防災講習会については、意識づけや参考になったという回答をいただいています。

Q5:防災食はどうでしたか？

「おいしかった」との回答は一般・中学生で7割を占めましたが、小学生には少し不評だったようで、4割が「おいしくなかった」と回答しています。防災食の味についても、年代で感じ方に差があるようでした。

3

「ナラ・シェイクアウト」にも参加

H28年(2016年)とH29年(2017年)には、避難訓練を兼ねて、「ナラ・シェイクアウト※」に参加しました。H30(2018年)の今年も、炊き出し事業以外に施設の防災備品を一斉に点検し、「使用できるか」チェックしたほか備品の場所や個数の確認を行い、不測の事態に対応できるよう、事務所に一覧表を張り出しました。



※「ナラ・シェイクアウト」

災害時の被害を減らす取り組みとして、地域の防災力の向上を図るために奈良県防災統括室危機対策係が毎年7月9日に行う「奈良県いっせい地震行動訓練」。



★「炊き出しの実施で地域に絆が自然と生まれた」

アシスタントマネジャーの林美穂さん

「普段は顔を会わせることのない、それぞれの教室の会員と一緒に作業することで、地域のコミュニティが広がり、新しい友達もできたと喜んでいただいています。また、炊き出しの炊き込みご飯を、みんなと一緒に食事をする中で、『いろいろ会話が弾んで、ごはんをおいしく食べることができた』など、会員さんから声をいただいています。また、自宅で一人食事する子どもが増えてきている中、いろいろな人達と一緒に食事する楽しさを知ってもらうことが必要だと感じています。当初は、炊き出しの実施で防災意識を持ってもらうことに目的を置いていましたが、終わってみると地域のつながりと絆が自然と生まれていました。炊き出しを行うことで、会員や地域のつながりが大変強くなったと思います。」

★「行政、地域内団体、学校と連携しつつ、防災活動に取り組みたい」

理事長の松原政則さん

「近年、少子高齢化が急速に進む地域の中で、防災に対する意識・対策がますます重要になってきています。そんな中、当クラブとしても、多世代の方の集まりであることを活用しながら、クラブ事業の中で防災を絡めていければと考えます。また、当クラブは毎年その年の一文字を決めて活動してきましたが、平成31年度は「連携」をテーマとして、一年の文字を「連」と決め、行政はもとより地域内各団体や学校とも連携しながら、スポーツだけにとらわれず防災についても地域の一翼を担えればと考え、活動に取り組んでいきます。」

（奈良県 クラブアドバイザー 川崎 香織）

クラブプロフィール

設立年月日 平成15年8月19日

所在地 奈良県吉野郡吉野町地区

運営 会員数 465名（平成30年12月現在）

予算規模：3410万円（内指定管理費2635万円、会費等775万円）

連絡先 〒639-3101 奈良県吉野郡吉野町山口910番地 吉野運動公園内

TEL 0746-32-1119 FAX 0746-32-1514

E-Mail ma27gd77ml@kcn.jpURL <http://web1.kcn.jp/ysc/>

特別企画

災害発生時の支援体制等を準備しているクラブ

NPO法人美咲町柵原星の原スポレク倶楽部

＜岡山県美咲町＞

いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対し、準備や対策ができるか、また災害発生地域に対し、どのような支援ができるかを考えることは、地域の諸課題解決に向けた取り組みとなり、より地域に根差したクラブとして定着することにつながるきっかけとなりえます。

そこで、今回は、クラブの防災対策や被災地支援等の取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

・設立経緯

平成17年、旧柵原町体育指導委員により設立準備委員会が発足。

・設立時のキーパーソン

旧柵原町体育指導委員と旧柵原町体育協会会長

・クラブの理念

「いつでも」「どこでも」「だれでも」そして「いつまでも」気軽にスポーツに親しめる「場所・時間・仲間」づくりを目指す環境を整える。

・現在までの経緯

設立当初は町の補助金でクラブを運営していましたが、先を見据えたクラブ運営をしないといけないとのことで、スポーツ振興くじ助成事業自立支援を受けている途中に文部科学省の「地域スポーツとトップスポーツの好循環事業」の受託に向けた準備を開始しました。平成25年～27年間の3年間「地域スポーツとトップスポーツの好循環事業」を受託することができ、それをきっかけに文部科学省受託事業が終わった翌年から美咲町の単町事業で小学校体育支援と保育園体育支援事業の取り組みが始まりました。平成30年度は美咲町の提案型まちづくり事業を受託し美咲町健康体操インストラクター養成講座を開催し、子どもからお年寄りまで町民の健康づくりに携わっています。



2 東日本大震災を契機に被災者支援を開始

・貴重な経験を経て支援の輪が広がる

東日本大震災の時に、本クラブのクラブマネジャーが日本スポーツ協会公認資格であるクラブマネジャー養成講習会と一緒に受講した仲間からの痛切な被災地現場(体育館)の状態を聞き、何か力になれることがあればと被災地支援に取り組むようになりました。東日本大震災の際には、被災して何日か経つとストレスや不安が増し、会話もろくにできない状況下で、どんどん心を閉ざしていく方が増えていく実態も聞きました。そこで何が必要かを聞き、まずは被災地の避難先体育館で身動きできない方や子どもたちに娯楽道具を送りました。その後、支援物資の内容は軍手、虫除けスプレー、ペットボトル(水)など、時の経過とともに変化していきました。この時の貴重な経験から、各地で大きな災害などが発生する度に「支援をしたい」という輪が広がってきました。

・全国各地での「3.11忘れない」追悼イベントに発展

毎年、3月11日には福島県を支援していた全国の仲間がネットワークを組み、全国各地でスカイランタンやキャンドルなどを使い、「3.11忘れない」という追悼イベントを行っています。ただ、課題は山積み状態です。SNSでも実施を呼びかけていますが、主旨が思うように伝わらないこともありました。しかしながら、私たちが伝えたいのは、「被災地支援 同じ目的でつながり合いましょう」ということです。そのために、意志のあるクラブは、1年に1回でもいいから同じ方向と目的で3.11の教訓を子どもたちや地域に伝え、もしもの時に備えることが必要です。その想いで活動を続けています。



・西日本豪雨災害ではメディア情報が遮断 頼りはSNS

平成30年の西日本豪雨災害では、まず自クラブに対策本部を立ち上げました。しかし、我々の地域の主要な道路が寸断され身動きがとれず、インターネットは土砂崩れの影響でつながりません。さらに、美咲町はケーブルTVでの放送視聴となるため、TVで被災情報を全くつかむことができず、停電も重なり不安な2日間を過ごしました。この時に、全国の支援仲間が岡山の被災情報などをSNSで逐一届けてくれたことにより、心の不安が拭いされ、心の支えにもなりました。

普段は当たり前のようにTVでニュースを見ていますが、それが不可能になった時、どのような手段で情報を入手したらよいかを、日頃から考えておかないといけないことを痛感しました。

・倉敷のクラブからの要請でクラブスタッフ3名派遣 福島のクラブからは義援金も届く

被災から3日後、倉敷で活動している当クラブの会員から、「倉敷の障がい者施設へ応援に来てください」との支援要請が届きました。「扇風機と電気コードリールが欲しい」、「暑くてたまらない」といった声や、泥撤去の応援要請があり、当クラブから3名を派遣しました。さらに、広島の実業クラブ協議会会長からSNSで支援物資の呼びかけがありました。広島県の筆の里スポーツクラブが指定管理をしている体育館が避難所となり、着替えのTシャツ・半ズボンが不足し、困っているとのことでした。いつも災害ネットワークを組んでいる仲間に呼びかけて、福島と島根のクラブからTシャツ・半ズボンを支援していただきました。中でも福島のクラブは東日本大震災の恩返しの観点から、当クラブに素早く義援金を振り込んでくれました。その義援金で半ズボン・Tシャツなどを購入し、その日のうちに広島に発送することができました。福島から準備をして送付すると、到着までに3日以上かかっていたことでしょう。緊急時に被災地が求めている物資を迅速に届けることの大切さを実感しました。

・北海道のクラブが取りまとめ役→効率的に支援物資を送付

その他にも学校の先生から、被災された子どもたちが筆箱を流され何もない状態で避難所にいることを危惧し、鉛筆、消しゴム、ノートなどの支援要請が届きました。

北海道のクラブが間に入り、支援できるクラブへの連絡や支援物資の取りまとめ役をしてくれたのも、大きな力となりました。そのおかげで、あるクラブは消しゴム、あるクラブは鉛筆という様に、全国のクラブから支援物資が当クラブに続々と届きました。当クラブでは、届いた物資を、クラブ職員だけでなくクラブの協賛会社も被災地へ届けてくれるなど、きめ細かい物資の配送ができました。

全国のクラブから「何か支援をしたい」という温かい声がかかり届きましたが、「本当に必要とする方に必要な物を」という基本方針もありますので、義援金を送付してもらって必要とされる物資を購入し、皆さんの気持ちを被災現地に何度も運ばせていただきました。



4 支援物資一つ一つにメッセージ添える

・被災地に赴きミニコンサートと炊き出しを実施

被災地の方に物資を持って行ったとき、全ての物資にメッセージをつけて渡しました。全国から物資がたくさん届いている中で、「このメッセージが一番嬉しい」などの言葉もいただきました。

また、皆さんが送ってくださった義援金をもとに、12月15日(土)に真備の被災地に赴き、癒しのミニコンサートと炊き出しを実施しました。そこでは被災された方が地域の皆さんのために心を通わすイベントを毎週実施しており、そこに集まって来られる皆さんの生の心の声を聴くことができました。被災者一人一人から涙ながらに被災当日のお話を聴き、計り知れない葛藤とストレスを軽減するには私たちがどのように動いたらよいのか考えさせられる1日となりましたが、被災された方々は「今日元気がもらえたので、また頑張れます」と涙を流して喜んでくれました。1秒1分でも皆さんが笑顔を取り戻してくれることを願って私たちは頑張ろうと感じた1日でもありました。



炊き出し中(12月15日 倉敷市真備町にて)

5 支援物資振り分けに不可欠なコーディネート役

全国のクラブとの支援ネットワーク構築を目指す

当クラブでは2名が防災士資格を取得しました。資格うんぬんより、資格取得のため学んだことは大変重要です。それをクラブにどう生かしていくか考えなくてはなりません。そこで、クラブの教室の中でミニ防災知識講座を開いたり、防災グッズ展示コーナーを設けたりと、日頃から防災に興味・関心を持ってもらうことにも力を注いでいます。また、現在始まっている健康体操インストラクター講座でも、いざという時にエコノミー症候群にならないための運動内容を少しずつ取り入れています。



被災地支援については、被災地で困っている物をSNSで拡散投稿してしまうと、同じ物ばかりが届いてしまうので、それを振り分けるためのコーディネート力が必要と感じました。また、被災県のSNSを中継して支援のコーディネーター役を申し出てくれるクラブがいたことが大変心強かったです。全国の総合型地域スポーツクラブのつながりに感謝するとともに、助けていただいたことに深く御礼を申し上げます。

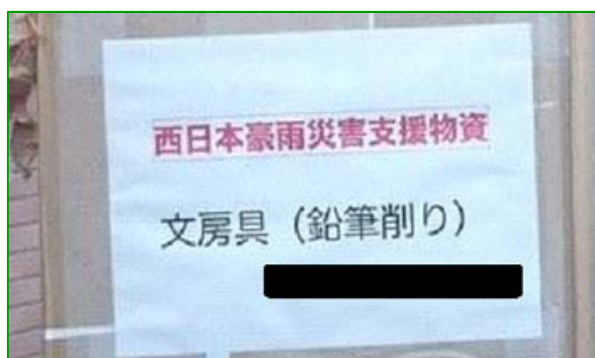
クラブとしては、これからも「いつ、どこで起こるか分からない災害」では、まずは自分の身を守ることを最優先に呼びかけることを遵守していきます。さらには、被災地からの支援要請があった際に、現地の困った声を聴いて素早く動ける態勢づくりを、今から広げて行動を起こさなければならないと感じています。そして、全国の総合型スポーツクラブとネットワークを構築できるよう働きかけていきたいです。

6 他クラブへのアドバイス

・支援呼びかけの際は、きめ細かな対応を

SNSは便利ですが、支援物資を呼びかける際には、注意が必要です。例えば、当クラブのように「Aクラブはバスタオル」、「Bクラブはペットボトル飲料水500ml(水)」など、丁寧かつ具体的な呼びかけが大切です。梱包箱には「支援物資」と大きく明記し、「バスタオル10枚」などと中身の詳細も記載してください。こうしたきめ細かな対応が必要であることを、このたびの災害で痛切に感じました。

(NPO法人美咲町柵原星の原スポレク倶楽部理事長 表田 実典)



支援物資(北海道のクラブより)



グッズを手渡し
(12月15日 倉敷市真備町にて)



クラブプロフィール

設立年月日 平成18年6月30日

所在地 岡山県久米郡美咲町 柵原地区

運 営 会員数402名(平成30年12月現在)、予算規模1,200万円(平成30年度)

有給職員 2名

特 徴 より多くの住民が世代を超え、健康づくりと仲間づくりの拠点として各種団体と協力して地域になくてはならない存在として親しまれるクラブを目指しています。また、人が集い知らない人同士もクラブを通じてコミュニケーションを深められるよう、ホッとする場所、集まりたくなるような場所をつくっています。さらに、笑顔が絶えない明るい地域づくりに貢献し、何よりも町のみなさんが元気になるようサポートしていくクラブです。

連絡先 〒708-1533 岡山県久米郡美咲町久木200-8

TEL 0868-62-1165 FAX 0868-62-1197

E-Mail hoshinosato@cyerry.net

URL <http://hoshinosato-sr.sakura.ne.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/suporeku.yanahara/>



足湯支援(8月25日)





連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント



beyond2020マイベストプログラム 2020年7月24日時点のマイベスト目標を立ててみませんか？



この度、政府において2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年東京大会」という。）の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指した「beyond2020マイベストプログラム」が始まりました。このプログラムは、2020年東京大会を契機に健康面等での「自己ベスト」を目指す個々人の取組に対する認証プログラムです。クラブがこのプログラムを活用することで、地域住民や団体の認知度向上などにつながる可能性も期待されます。

そこで、今回は、このプログラムの概要や申請方法について紹介します。

●beyond2020マイベストプログラムとは

2020年東京大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン
「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト
「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

「beyond2020マイベストプログラム」とは、この基本コンセプトの1つ「全員が自己ベスト」を踏まえ、大会に参加するアスリートだけでなく、一人ひとりが2020年東京大会を契機に健康面等での「自己ベスト」を目指して行動変容に取り組む環境を提供するため、「自己ベスト」を目指す個々人の取組を支援する事業・活動を認証するものです。「beyond2020マイベストプログラム」として、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が認証します。

対象事業・活動

- (1) 個々人によるマイベスト目標の設定及び当該目標の達成に向けた行動を支援する事業・活動であること。
※マイベスト目標とは、健康面等でより最適な状態を目指すために個々人が**2020年7月24日時点**での目標として設定するものをいう。
- (2) 個々人が(1)の行動を継続するための工夫を取り入れた事業・活動であること。

東京オリンピック
競技大会が開幕する日



対象者

- ① 国の行政機関(独立行政法人、特殊法人及び認可法人を含む。)
- ② 地方公共団体(特別区、一部事務組合及び広域連合、地方独立行政法人を含む。)
- ③ 国立大学法人及び学校法人
- ④ 公益法人又はこれに準ずる団体
- ⑤ 株式会社等その他法人格を有する団体
- ⑥ ①から⑤までに掲げる者に準ずると認められる団体

総合型クラブも法人格の有無を問わず申請できます！

認証されると...

beyond2020マイベストプログラムのロゴマーク(※)が使用できます。

※近々、公表予定

●beyond2020マイベストプログラムとして考えられる取組例 (※あくまでも例示です)

運動目標を立てよう！

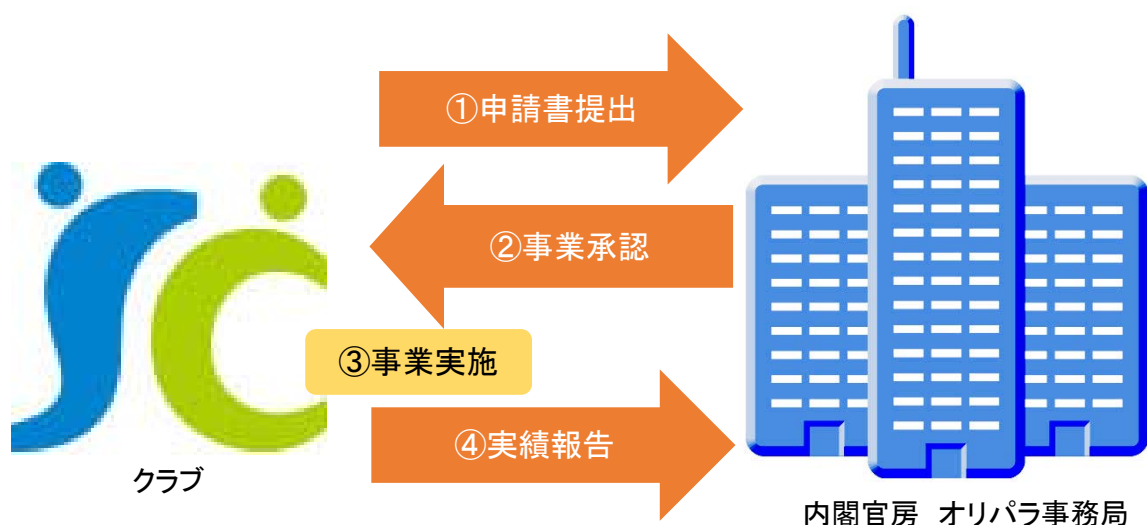
個人の目標	個人の目標を支えるクラブの取組
2020年7月24日までに10km走れるようになる	→ ・定期的なランニング教室の実施 ・半年に1度10km走チャレンジイベントの実施
2020年7月24日までにリフティング連続50回できるようになる	→ ・サッカー教室で、リフティングを指導 ・月に1度リフティング測定会を実施
2020年7月24日まで継続して2週間に1回クラブのプログラムに参加する	→ ・各会員のプログラム参加状況スケジュールの作成
2020年7月24日まで継続して毎日1万歩歩く	→ ・各会員歩数グラフを作成 ・クラブ会員の合計歩数・km数グラフを作成、クラブでの合計移動距離の目標(地球1周分等)設定

健康目標を立てよう！

個人の目標	個人の目標を支えるクラブの取組
体重や体脂肪率の目標数値を立てる	→ ・運動プログラムの提供 ・月に1度測定会を実施



●申請手続きについて



※認証申請方法及び様式は、以下のホームページよりご確認ください

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond_mybest/index.html

●総合型クラブの日々の取組がレガシーになる

beyond2020マイベストプログラムに認証された事業は内閣官房のホームページに掲載される予定です。また、認証された事業はロゴマークが使用できることなどから、今までクラブと接点なかった地域住民や地域団体に対する認知度の向上など、クラブに有益となる効果も期待されます。

また、クラブ会員が、クラブの実施するマイベストプログラムに参加することで、一人ひとりが2020年東京大会への参加意識を持つことができます。さらに、このプログラムをきっかけに一人ひとりが目標に向けて行動し、2020年東京大会後もこの取組を継続することがレガシーとなります。

全国の総合型クラブが「beyond2020マイベストプログラム」に申請することにより、2020年東京大会への機運醸成への大きなムーブメントとなるとともに、総合型クラブの存在が大会コンセプトにある「未来への継承」につながる可能性もあります。ぜひ、クラブのみなさんで、2020年7月24日の自分のなりたい姿・目標を立て、それに向けて取り組んでみましょう！





助成金情報

ノエビアグリーン財団 助成事業

【実施団体】（公財）ノエビアグリーン財団

公益財団法人ノエビアグリーン財団は、日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な児童、青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

【申込期間】 平成30年12月3日（月）～平成31年2月28日（木）

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 2019年度助成金

【実施団体】（公財）ヨネックススポーツ振興財団

助成金交付対象は、青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施している団体とします。

【申込期間】

前期 対象期間：2019年4月～9月及び2019年度の年間を通した事業

申請期限：2018年12月20日（当日消印有効）

交付決定：2019年2月28日（予定）

後期 対象期間：2019年10月～2020年3月の事業

申請期限：2019年6月20日（当日消印有効）

交付決定：2019年8月31日（予定）

様式をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

日本スポーツ協会では、平成30年7月豪雨災害復興支援として、都道府県総合型クラブ連絡協議会、加盟中央競技団体、加盟都道府県体育・スポーツ協会、加盟関係スポーツ団体、準加盟団体、都道府県スポーツ少年団、公認スポーツ指導者ならびに関係者の皆様に義援金の募集を行ってまいりました。

皆様からお預かりした義援金全額(26,364,408円)を去る12月21日に日本赤十字社に寄付しました。義援金募集にご協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

イベント情報

ブロック別クラブネットワークアクション2018開催報告

【公益財団法人日本スポーツ協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催しました。

各ブロック開催報告はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.asp>

平成30年度公認クラブマネジャー研修会開催

公認クラブマネジャー研修会は、本会公認クラブマネジャーの資質の向上および公認クラブマネジャーの連携を図ることを目的に毎年開催しています。

本年度の開催日は以下のとおりとなりますのでぜひ参加をご検討ください。

日 時	平成31年2月2日(土) 13:00～18:00(予定)
場 所	日本スポーツ協会 101・102・103会議室 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内
定 員	50名(先着順)
参加料	5,400円(税込)
内 容	「クラブに求められるガバナンス・コンプライアンス」 「効果的・効率的な会議の進め方」
申込方法	指導者マイページよりお申込みください。 https://my.japan-sports.or.jp/login ※参加決定者には別途本会より参加決定通知をお送りします。
申込締切	平成31年1月28日(月) ※定員に達し次第、申込を締め切ります。

開催概要はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid245.html#01>

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用方法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催日時・場所・申込方法等詳細はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

第46回日独スポーツ少年団同時交流 団員・指導者募集要項

本交流は、日独両国のスポーツ少年団の優れた青少年および指導者の相互交流により友好と親善を深め、国際的な能力を高めると共に両国の青少年スポーツの発展に寄与することを目的に昭和49(1974)年から継続して実施しており、これまで両国あわせて1万人以上もの青少年の交流を行っています。

交流概要はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/international/tabid552.html>

お申し込みされる場合は、所属の市区町村スポーツ少年団、都道府県スポーツ少年団からの推薦が必要になります。

応募の詳細につきましては所属の市区町村スポーツ少年団へお問い合わせください。

今年度の交流様子はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/photoalbum/tabid1177.html>

日本体育・スポーツ経営学会 第61回研究集会 参加者募集中

日本体育・スポーツ経営学会では、「体育・スポーツ経営人材に求められるコアコンピテンシー」をテーマに第61回研究集会を開催します。

日 時	平成31年1月26日(土)13:00～16:50
会 場	早稲田大学早稲田キャンパス3号館301教室
参加費	(資料代含む) 一般会員2,000円、学生会員1,000円 一般非会員3,000円、学生非会員2,000円

第61回研究集会 リーフレットはこちら

<https://jsmpes.jp/content/files/kenkyuusyuuukai/Leaflet61.pdf>

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格情報

2019年4月1日付公認スポーツ指導者資格登録手続きのお知らせ

2019年4月1日付公認スポーツ指導者資格登録手続きを実施します。

資格の取得および資格継続のために必要な手続きになりますので、該当する方は2019年3月31日(日)までにお手続きいただきますようお願いいたします。

更新手続きのご案内は、更新に必要な義務研修を修了された方へ、1月下旬からご登録住所宛にお送りします。

ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、この日本で開催されます。世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土)

参加チーム 20チーム(下表をご参照ください。)

試合形式 プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合
決勝トーナメント 準々決勝/準決勝/3位決定戦/決勝:8試合

プール表

プールA	プールB	プールC	プールD
 アイルランド	 ニュージーランド	 イングランド	 オーストラリア
 スコットランド	 南アフリカ	 フランス	 ウェールズ
 日本	 イタリア	 アルゼンチン	 ジョージア
 ロシア	 ナミビア	 アメリカ	 フィジー
 サモア	 カナダ	 トンガ	 ウルグアイ

試合会場 日本全国12会場

開催都市 札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県・愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら(試合日程や大会の最新情報をご覧ください。)

<https://www.rugbyworldcup.com/>

チケットの情報はこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>